

会員の活動報告

(2018年11月～2019年10月)

伊川 徹

- ・私の視聴覚道具箱 Ma boîte à outils audiovisuels (*RENCONTRES* 33, Rencontres Pédagogiques du Kansai, pp.32～36、2019年7月)
- ・モリエールの『町人貴族』を演じる(6回連続講座、伊川 徹主宰CAF++ SPECTACLES 3、於神戸国際会館8階セミナー・ハウス、2019年1月～3月)
- ・私の視聴覚道具箱 Ma boîte à outils audiovisuels (口頭発表、第33回関西フランス語教育研究会、(於上田安子服飾専門学校、2019年3月)

奥 純

- ・ロブ＝グリエの『コラント最後の日々』について(口頭発表、関西大学フランス語フランス文学会、2018年12月15日)
- ・アラン・ロブ＝グリエの後期作品の研究(4) — 『コラント最後の日々』と物語空間 — (『仏語仏文学』第45号、2019年3月)

柏木 治

- ・『銀行家たちのロマン主義～一九世紀フランスの文芸とホモ・エコノミクス～』(関西大学出版部、2019年3月)
- ・王政復古期における銀行家たちの文化活動～一九世紀前半における「銀行家」の社会的地位と文学空間(三)～(『関西大学文学論集』、関西大学文学会、第68巻3号、2018年12月)
- ・巧みな戦略裏打ち(新聞記事、第35回織田作之助青春賞・U-18賞選評、(『毎日新聞』、2019年1月10日)
- ・第34回織田作之助青春賞選評(新聞記事、『三田文学』、三田文学会、第136号(冬季号)、2019年2月)
- ・第35回織田作之助青春賞・U-18賞選評(新聞記事、『文学回廊』、大阪文学振興会・織田作之助賞実行委員会、第4号、2019年3月)
- ・読書教養講座「文学だけが文学じゃない」(公開講座、ゲスト：赤坂真理氏、講演と対談、21世紀活字文化プロジェクト、読売新聞社、2018年12月8日)
- ・青春賞・新人賞作家大いに語る!～『三田文学』136号掲載織田作之助青春賞をめ

ぐって～、公開シンポジウム、慶應義塾大学文学部・三田文学会共催、2019年3月7日)

友谷知己

- 『フランス語初級文法なつ星』(教科書、マルヴィナ・ルコント、中畑寛之、山上浩嗣共著、朝日出版社、2019年1月15日)

リコーヨコヤマ・アドリアナ

- Complexité et ambivalence dans le roman *Chanson douce* de Leïla Slimani, ou la fragile frontière entre le bien et le mal (『仏語仏文学』第45号 29-70頁、2019年3月)
- « Utilisation d'outils électroniques du quotidien à des fins pédagogiques » 「教育目標に向けた日常的なデジタル手段の創造と利用」(口頭発表、アジア・太平洋地区フランス語教育国際学会、モンゴル仏語教員協会、モンゴル国立大学、ウランバートル、2019年9月19-21日、2019年9月20日)

山川清太郎

- 社会を生き抜くための人文学 — フランスを用いたケースメソッドの可能性 — (高橋梓、松井真之介との共著、神田外語大学言語メディア教育研究センター年報、2019年3月)
- 他者の文化と自分をつなぐ — フランス文化研究入門ワークショップ — (ワークショップ、高橋梓、松井真之介、山川清太郎、富山大学フランス語教育国際シンポジウム&ワークショップ、2019年7月20日)
- ケースメソッドを用いたフランス語圏文化教育ワークショップの実践報告(口頭発表、高橋梓、山川清太郎、松井真之介、日本フランス語教育学会、2019年6月9日)
- 人文系教養教育におけるケースメソッドの展開可能性 — フランス文化教育の視点から — (ポスター発表、高橋梓、山川清太郎、松井真之介第25回大学教育研究フォーラム、2019年3月23日)
- 「フランス」を学生に近づけるには — ケースメソッドを用いたフランス文化教育プロジェクト実践報告(口頭発表、高橋梓、山川清太郎、松井真之介、関西フランス語教育研究会、2019年2月11日)
- 社会を生き抜くための人文学 — 『フランス』を用いたケースメソッドの可能性(ワークショップ、高橋梓、山川清太郎、松井真之介、イノベティブクラスルームプラクティ2018、2018年12月8日)

- 人文学で社会を開く ― 「フランス文化」の使い方を学ぶケースメソッド入門 ―
(富山大学フランス語教育ワークショップ、高橋梓、山川清太郎、松井真之介、
2018年11月10日)

後 記

本年も、『仏語仏文学』をお届けする時期になりました。本号で第46号になりますが、本号も充実した論集にすることができました。原稿をおよせいただきました会員の皆様、および本号の刊行に協力いただきました皆様には、厚く御礼を申し上げます。

本学会2019年度研究発表会・総会が2019年12月21日（土）午後3時から、関西大学千里山キャンパス第1学舎C304教室において開催されました。友谷知己教授によるマリヴォーに関する発表と非常勤講師の高岸敦夫氏による発表が行われ、充実した研究発表会となりました。当日の発表題目を以下に紹介しておきます。

1. マリヴォーと古典悲劇

本学教授 友谷知己 氏

2. 「ロバの皮」型における父と娘の関係

本学非常勤講師 高岸敦夫 氏

末尾ながら、会員各位のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

（編集委員会）

関西大学フランス語フランス文学会々則

1. 本会は関西大学フランス語フランス文学会 (Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) と称し、事務所を関西大学文学部フランス語フランス文学専修合同研究室に置く。
2. 本会はフランス語フランス文学に関する研究および発表と、これに関連する事業を行なうことを目的とする。
3. 本会は次の事業を行なう。
 1. 機関誌「仏語 仏文学」(Bulletin de la Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/The Bulletin of Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) およびその他の出版物の刊行。
 2. 研究会・講演会の開催。
 3. その他本会の目的にかなう事業。
4. 本会はその目的に賛同する次の会員をもって構成する。
 1. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修専任教員。
 2. 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻・専修学生、およびその修了者 (旧学科名称時の大学院修了者を含む)。
 3. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修学生、およびその卒業生 (旧学科名称時の学部卒業生を含む)。
 4. 本会の趣旨に賛同し、入会を認められた者。
5. 本会の目的を達成するため会費を納入する。
6. 本会に次の役員を置く。その任期は1年とし、重任を妨げない。
 1. 会 長 1 名
 2. 委 員 若干名
 - a. 企画委員
 - b. 編集委員
 - c. 庶務・会計委員会長と委員によって委員会を構成し本会の実務の運用に当り会長はこれを統括する。
7. 会員は機関誌「仏語 仏文学」等の配布をうける。また会員は機関誌への投稿、および本会の行なう事業に参加することができる。なお、投稿論文は、会則6に定める委員会の議を経て掲載される。
8. 本会の重要事項は総会の議決による。

(2007年4月1日から施行)

仏 語 仏 文 学 第 46 号

2020年3月15日 発行

編集・発行 関西大学フランス語フランス文学会
吹田市山手町 関西大学
フランス学研究室
印刷所 株式会社 遊 文 舎
大阪市淀川区木川東4丁目17番31号
電話 (06) 6304-9325(代)

(非 売 品)